

俳句

落葉

木々朗

浅漬や秘伝といえる旬の味
浅漬や出来映えの色白透けり
本場より殻付きの牡蠣届きけり
もてなしに生食や鍋牡蠣料理
朝日和落葉の中にひかる水

雑詠 霜月

細田 安治

コロナ歳^{とし} いつの間にやら 冬たちぬ
霜月や 木々競^{きそ}って 紅^{べに}をつけ
まだまだと 何かやるぞと 紅^{くれない}の葉
色づくも ここでお別れ 落ちるだけ
手も湿り 人パラパラと 西の市
深川に 紅葉寄り添う 汐溜り



べったら漬

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>